

2025 vs. 2026 知財情報フェア比較：IPランドスケープの「社会実装」への進化

分析手法の提示から組織を動かす具体的な実践へ

2025年：技術と可能性の提示

2026年：組織実装と行動への接続



何ができるか

生成AIによる自動化や市場データの統合など、新しい「武器（ツール）」の登場が中心。

分析の正しさだけでなく、組織内の合意形成や対話の支援がサービスの一部となった。



どう動かすか

分析結果を経営・開発の判断につなげる「具体的な手順」や「成果物の形」が明確化。



経営・現場を動かす「伴走型」支援
開発段階に合わせた情報提供やプロジェクト運営など、分析の前後工程の支援が拡大。



AIの「透明性」と「信頼性」の確保
回答根拠や分析過程を可視化する機能が実装され、経営判断に耐える信頼性を追求。



投資対効果 (ROI) への直接的な接続
知財投資と利益の関係を経営データと結びつける「知財ROIC」などの指標が提示。

主要出展者に見る具体的な進化の例

出展者	2025年の焦点	2026年の進化点
TTDC	AIツールの展示	経営・開発を動かす実践手法の提示
レクシスネクシス	戦略的意思決定の訴求	AIによる分析過程・根拠の確認支援
東芝	費用対効果・競合分析	経営データと連携する「知財ROIC」